

News Release

平成21年10月29日

パイオニア株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小谷 進
 (コード番号 6773 東証第一部)
 問合せ先 代表取締役専務取締役 岡安 秀喜
 電 話 (03) 3494-1111

平成22年3月期 連結業績予想の修正についてのお知らせ

平成21年5月13日に発表した平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の連結業績予想について、次のとおり修正しますので、お知らせします。

1. 通期連結業績予想の修正

(金額単位 百万円)

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失
前回発表予想(A)	420,000	△33,000	△37,500	△83,000
今回修正予想(B)	451,000	△25,500	△30,000	△59,500
増減額(B-A)	31,000	7,500	7,500	23,500
増減率(%)	7.4	—	—	—
平成21年3月期通期実績 (ご参考)	558,837	△54,529	△54,420	△130,529

〔修正の理由〕

売上高については、カーエレクトロニクス事業において、市販市場向けで新興国を中心とする自動車販売の回復と、新製品導入効果による出荷増を見込むこと、OEMで自動車メーカーの生産上方修正を受け売上増を見込むこと、また、ホームエレクトロニクス事業において、シャープ株式会社との合併により継続する光ディスク事業の売上を織り込んだことなどに加え、全社で円安の影響を計画に織り込んだことにより、前回発表予想を上回る見込みです。

構造改革の順調な進展の下、営業損失は、プラズマディスプレイの価格下落が当初計画よりも小幅であったことや、為替が当初の想定に比べ円安に推移している影響を織り込んだことなどにより、また、経常損失は、営業損失の縮小により、それぞれ前回発表予想から改善する見込みです。

当期純損失については、光ディスク事業を合併により継続することから、構造改革費用が圧縮されることなどにより、前回発表予想からの改善を見込んでいます。

以上の業績予想における第3四半期以降の為替レートについては、米ドルは前回発表予想と同じ1米ドル=90円、ユーロは15円円安の1ユーロ=130円を想定しています。

2. 第2四半期連結累計期間連結業績予想の修正

(金額単位 百万円)

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失
前回発表予想 (A)	195,000	△32,000	△35,000	△47,000
今回修正予想 (B)	203,000	△23,000	△24,500	△41,000
増減額 (B-A)	8,000	9,000	10,500	6,000
増減率 (%)	4.1	—	—	—
平成21年3月期第2四半期 連結累計期間実績 (ご参考)	327,042	△14,340	△13,540	△44,071

【ご参考】

平成22年3月期第2四半期の連結業績については、11月5日に発表の予定です。

見通しに関する注意事項

当発表資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入、急速な技術開発、厳しい価格競争、主観的で変化しやすい消費者の嗜好等の特徴とする、競争の激しい市場において、評価の高い製品やサービスを継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)事業に影響を与える技術進展に応じて、競争し、販売戦略を策定、成功させる能力、(6)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(7)ブランドイメージを継続的に向上させる能力、(8)他社との合併や提携の成功、(9)構造改革の成功、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

以上